

# 新・運営組織の現況

東京るべしべ会 世話人代表

佐藤 勉



旧・留辺蘅町出身者から構成される「東京るべしべ会」は、今年、第四十四回の開催となりました。平成二十六年開催の第四十二回総会より、運営組織を幹事会から世話人会に変更し「スマートなふるさと会」を目指す事になり、二年が経過しました。

当会の公認イベントの「元気な会員の皆さん」を目標とした、二月「北見市ふるさと会親睦大会」と七月「オホーツクふるさと会」ボウリング大会も終えたところです。参加者も年々増え、年齢をとて感じさせない投球フォーム姿の皆さんには感謝の一言です。

又、大会終了後の反省二次会を京浜急行の新馬場駅北口「さっぽろジンギスカン喜楽」(当会出身者が七月開店)で開催し、大会の成績分析を初め、本年の総会参加者を如何に増やせるか、特に一般会員の参加促進や孫世代の若者の入会勧誘対策の議論の場になり、大いに盛り上がりました。

更に「北海道ふるさと会連合会」の来年度からの年会費値上げ(一万五千元)の決定報告では「スマートなふるさと会」を目指す当会として、経費アップが大きな問題となりました。と言いますのは「東京るべしべ会」は、総会毎の総会収支がトントンに収まり、繰越金を極力なくす方向、つまり会員の経費負担の軽減を目標にしたばかりの矢先の為です。

しかし、連合会・森隆信前会長から高橋照美現会長に引継がれた。未加入ふるさと会の加入促進。支援の立場の「スマートなふるさと会」としては、更なる一踏ん張りの精神で協力し、頑張っ行ってきたいと考えています。

# 「科学に親しむ 郷土余市の会」

東京余市会 平田 更一



第40回総会「科学に親しむ郷土余市の会」は、日本科学未来館で5月28日、120名が参加して行われた。

園田保男会長が、「マッサンブームにより、東京と郷土余市の連携が図られたことに感謝」と挨拶、島保町長から町政報告と新しい事業の紹介があった。

毛利衛日本科学未来館館長(昭和41年余市高校卒業)が「つながり」というタイトルで、2020年100億人の人口の地球が生存するためには科学技術が重要であり、日本の科学技術は世界に見られない『文化』に昇華していること、各国要人が科学未来館を訪問していることを紹介した。篠崎祐三東京理科大学嘱託教授(昭和36年余市高校卒業)は、「地震と建築」と題して、地震に



毛利日本科学未来館長を挨拶する

よる建物崩壊の大きな要因には「震源断層」、「波動伝播経路」および「建物の敷地地盤」であり、阪神淡路大震災、東日本大震災から熊本地震と日本の大災害を分かりやすく解説した。

古村雄二株式会社フィルテック代表取締役(昭和43年余市高校卒業)からは、「日本の科学技術と成長阻害」と題して、日本の産業成長力、GDP、科学技術論文、人口減少、貯蓄にて阻害要因があり、日本がもつ潜在的な科学技術力を未来へつなぐ重要性について話があった。

懇親会では、ニッカウイスキーを飲みながら余市の特産物が当たるくじ引きを楽しみ、ソプラノ歌手谷めぐみさんの歌う「麦の唄」の美声に耳を傾け、全員で「ふるさと」を合唱して、散会した。

# 役員を終えて

相談役・前副会長(東京妹背牛会会長)

堀口 正 顯



四月の定時総会で一身上の都合で、任期を一年残して退任のご承認をいただきました。後任には奥山(東京恵庭会)氏をご承認いただき有難うございました。

会長をはじめ役員の方々、また会員の皆様にご迷惑をおかけし誠に申し訳ありません。

例えば橋本会長の下で理事四年、伊野会長・森会長・高橋会長の下で副会長・事務局長を七年間、会員の皆様、関係企業・団体の皆様には温かいご支援・ご協力を賜りましたことに厚くお礼申し上げます。

# 深川に思いを寄せて

東京深川会 監事

末 正 美智子



昭和20年敗戦の翌年のこと父の転勤によって函館庁立高等女学校から深川高等女学校に転校することになりました。江部乙に居を移してから父は滝川より深川の高校の方が伝統もあると、早速に見学に行きました。焦土となった函館から訪れた深川には緑豊かな田園そして爽やかな風景、心地よい空気、何よりも素敵だったのは少し小さい所に、ピンクに白の縁取りされた美しい校舎でした。

校舎の中庭にはダリア、グラジオラス、赤や黄色の草花が処狭しとばかりに咲き誇っていました。今でもその風景が懐かしく思い出されて来ます。数十年前アメリカのボストンに居る長男の所を訪ねた時、教会に案内してくれました、教会の中に学校・幼稚園が併設されており、その学校が深川女子校と全く同じピンクに白の縁取りの校舎でした。

もう建設されて120年ほどとか、窓ガラス等もユラユラしたように見える古いものでした。かつて通学した深川女子校も今は新しいコンクリートの高校が建設され、私達の昭和25年卒業時の写真だけが廊下にひっそりと飾られていました。

深川駅も今は立派になり昔の面影は無くなりましたが、彼(深川西高卒)をゲットしたのは、寒い冬の深川駅でした。私にとっては懐かしい懐かしい、想い出深い忘れ難い出来事です。澄みきった石狩川の流れ、堤防で友や彼と語り合った日々……心優しい深川には永遠の発展を心より願っております。